

原町市史 第三巻 資料編Ⅰ

考古

平成 22 年度刊行

『原町市史』第三巻 資料編Ⅰ「考古」
平成 23 年 1 月刊
B 5 判 836 ページ・オールカラー
頒布価格=6,000 円 (送料別)

コレクション

竹島



【たけしまコレクション】竹島剛志氏 (1909～93) が筑前地方の遺跡で採集した土器、石器、骨角器などの遺物一万余。記録ノート、写真資料等の成集資料、研究資料等を併す。これらの資料は、ご遺族の好意で南相馬市博物館に寄贈された。祖島県の考古学研究にとって、欠くことのできない貴重なコレクション。



【どくろ】粘土で作られ焼成された「ひとがた」。福島県下では縄文時代前期に現れ、弥生時代中期まで作られる。乳房や腹部の膨らみの表現から、妊娠した女性を表し、生命の再生を願って作られたものと考えられる。意図的に破壊された状態で出土することが多い。

土偶

石包丁

【いしうちょう】弥生時代に大塚から家上石包丁の二つ、柄の部分を組み取る二枚の包丁として用いられたと考えられる。福島県道沿い北部は、東日本でも石包丁の出土地である。これは、粘板岩の産地であるという材料地によるものとされる。当該地域では、柄の粗造し孔をもつ半月形や斧形のものも主体を占めている。



【かわら】原根瓦材の一つ。土製の焼物が一般的で、日本では大和国丹波郡の丹波(くんだり)から建築した瓦博士が寺院を建立する技術の一端として瓦を作りはじめたといわれている。軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、東瓦、細瓦(しび)などがある。文様の彫られた部分を瓦当といひ、瓦の呼称は、重有薩草文軒丸瓦、重有薩草文軒平瓦、花鳥文軒丸瓦等、木葉文軒平瓦、偏向南草文軒平瓦、重草文軒平瓦など、瓦当面の文様から与えられている。



瓦



縄文

【じょうもん】土器を作る際、器面に縄(器紐)を転がすことによって得られるネガティブな縄目の文様。縄文時代から弥生時代まで、多くの土器にこの文様が施される。転がす縄を縄文原形という。
原形の廻り方によって現れる文様に違いが出る。2段廻りの縄による単純縄文が最も一般的であるが、1段廻りの縄を用いると無節の縄文、3段廻りでは複節の縄文が現れる。また、右廻りに巻いた縄と左廻りに巻いた縄では、茶および節の粗さが異なって現れる。時期や地域によって特徴的な縄文が用いられることがある。墨系文も広義の縄文に含まれる。

へそー
こんなところにも
あつたんだー

原町区内の199遺跡を詳述。

古墳



【かぶつ】二世紀頃から七世紀頃までの土を高く盛り上げた死者の埋葬場所。平形に作り、四角、方形、前方後円形、前方後方形、上円下方形などよく知られる。埋葬施設には、掘進された横穴(土中)を掘り込み、その底に柩を置き付け、埋め戻した際穴の口を土で埋め、地上にもしくは墳丘築造下の地に開き、その上に墳丘が作られる横穴式常のものがある。遺体を埋めるには、木柩、石柩、陶柩などがある。

*編集・発行 **南相馬市**

*お問い合わせ
南相馬市博物館市史編さん係

福島県南相馬市原町区牛来字出口 194
☎975-0051 ☎0244-25-7300 fax0244-24-6933
E-mail shishihensan@city.minamisoma.lg.jp

石倉遺跡出土土偶
桜井遺跡出土の石包丁 (福島県立博物館提供)
泉官衛遺跡出土瓦
竹島コレクション「竹島ノート」
滝ノ原遺跡出土縄文土器
桜井古墳航空写真
羽山横穴墓群 1号横穴奥壁の壁画 (部分)